

伝統祭礼の存続が 移住定住に与える影響について

-地域の交流を生み出す伝統祭礼に着目して-

京都府立大学岩松ゼミ かきたま汁チーム

金野佑希乃 瀬島美友紀 高木智也

01

研究背景と 問題意識



**農山村地域における
少子高齢化・人口減少**



伝統祭礼の担い手不足

2005年以降の神社(神道)



出典:「宗教統計調査」文化庁宗務課

伝統祭礼が消滅すると・・・

地域コミュニティの基盤を失う
→地域の結束力・活力を失う



02

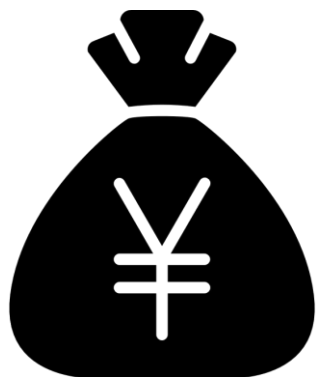
本研究の 位置付け



移住先の決め手（従来）

経済的支援

生活環境の
整備



目に見える要因

目に見える要因

経済的支援



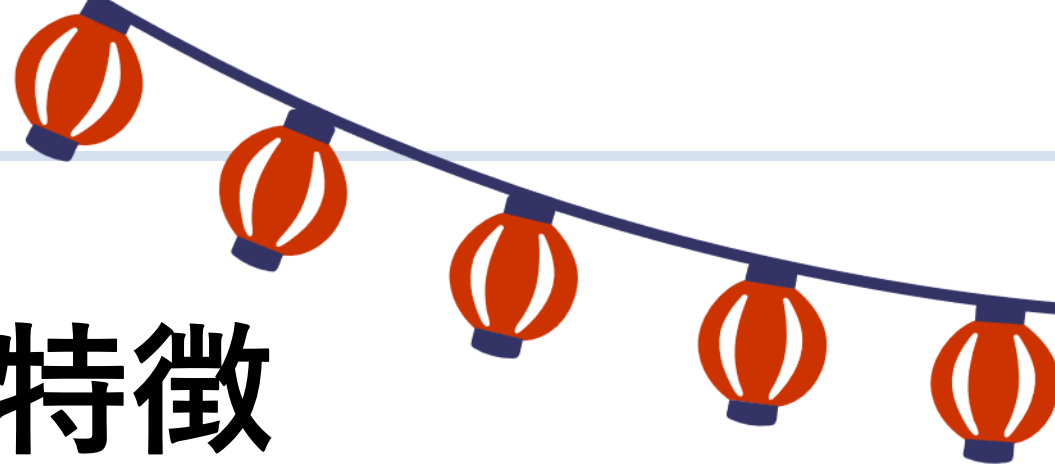
生活環境の
整備



目に見えない要因

受け入れ態勢
人間関係の質





伝統祭礼の特徴

- ・ 年に一度
- ・ 住民が一丸となる

地域の雰囲気を端的に示す場

03

研究目的



祭りの運営変更

柔軟な対応

継承

伝統重視

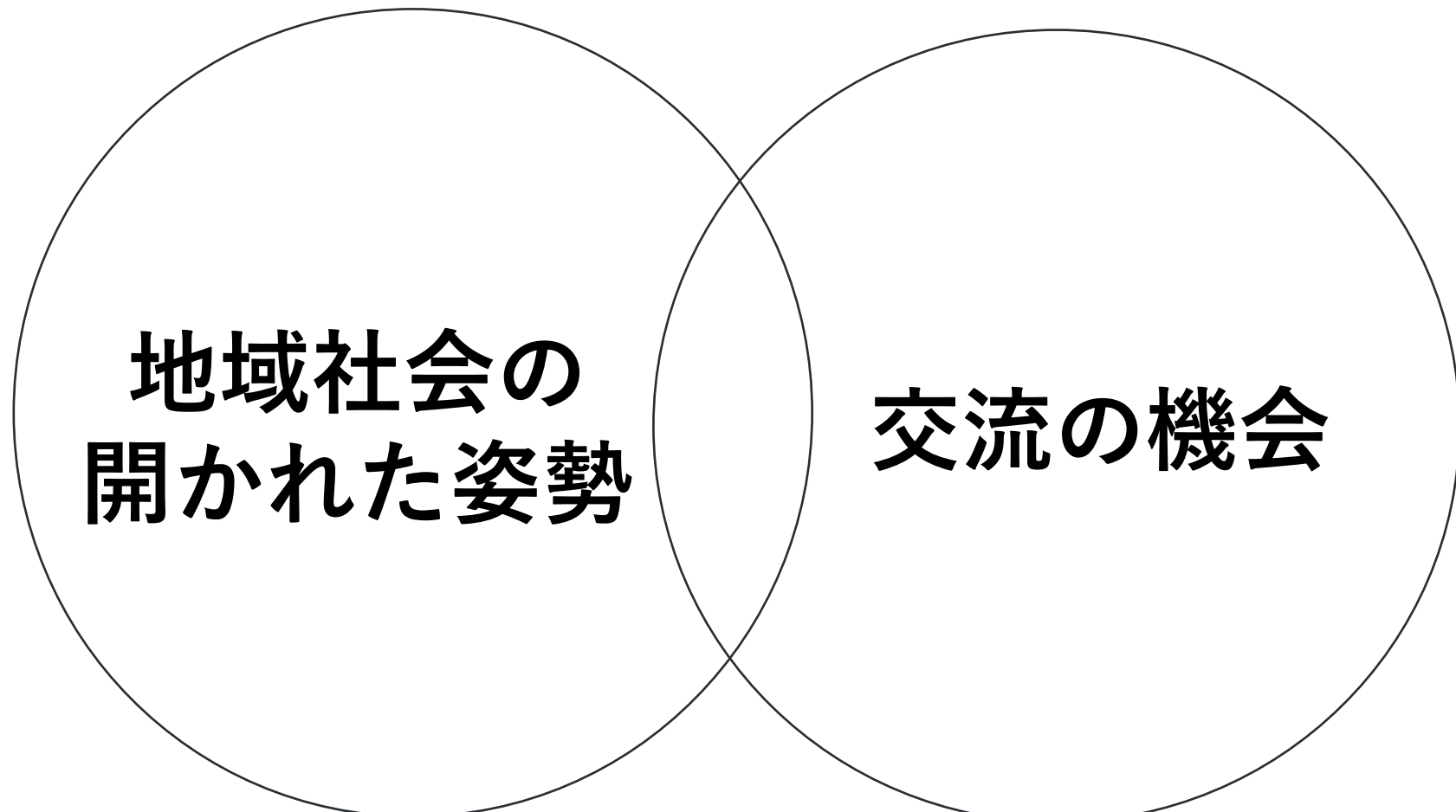


つなぐ

存続重視

「つなぐ」戦略が
寛容な雰囲気気の醸成に
どう影響するのか？





移住の心理的ハードルを下げる

04

研究結果



竹野地区について



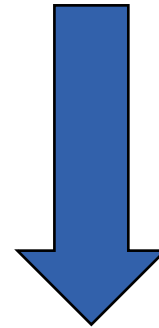
京丹波町に属する地域

- 人口は **7 4 2** 人（令和 6 年時点）
- 平成28年度以降、毎年移住者を受け入れ
→ **9 年間で移住者は 9 7 名**
（全体の 1 3 %）



葛城神社曳山巡行

130年にわたり受け継がれてきた伝統行事



しかし、人口減少によって担い手が不足

保存委員会を設立

令和6年度の取り組み



乗子（神輿に乗る子ども）の問題



本来6人乗り→2人しか乗っていない状況に陥る

＊竹野から離れた子どもも神輿に乗る対象に →乗子が揃った

→伝統祭礼をきっかけとして帰省する子どもとその家族の増加

参加者：京都府立大生12人

6 地区に 2 人ずつ分かれてインタビューを行う

調査の目的

- ①地域住民が伝統祭礼についてどのように考えているか
- ②竹野に関わりのない人が曳山巡行に参加してどう感じるのか

地元住民の声（ヒアリング結果）



祭のために地元を出た人たちが帰ってきて、その人たちと酒を交わしながら話すのが楽しい。

全地区の人が集まるので、地域のつながりの機会創出になっている。



老若男女、地元の方、移住者、そして地区外に出た子供たちまで含め、誰もが一体となれる場になっている。

参加した府立大生の声（感想）



初対面なのに家族のように受け入れてくれて
温かい雰囲気に参加しやすかった。

どんな人でも受け入れる姿勢があり心地よかった。



気さくに接してくださったこともあり、
徐々になじんできて、とても楽しむことができた。

1

地域同士の交流の場になっている **（地域の魅力）**

→地域の一体感を生み出している

2

参加者にとって温かい雰囲気を作られている

→地域と関わる**心理的なハードル**を下げている

移住者の伝統祭礼を通じた地域への関わり方

初年度	2年目以降
受動的な参加	主体的な参加

地域の中心的存在に

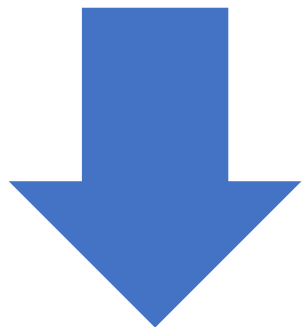
移住者の定住にも
恩恵がある

05

考察



祭りの存続



移住定住を促進させる

伝統祭礼の存続が移住定住を促進させる理由

1

移住定住の心理的ハードルを下げる

2

移住定住の大きな理由となる地域の魅力を作っている

伝統祭礼の存続が移住定住を促進させる理由①

1

移住定住の心理的ハードルを下げる

伝統祭礼の特徴

➡ 協働作業・年に一度

地域の雰囲気を端的に示す場

伝統祭礼の存続が移住定住を促進させる理由②

2

移住定住の大きな理由となる地域の魅力を作っている

温かい人柄と雰囲気



伝統祭礼の存続が移住定住を促進させる理由②

2

移住定住の大きな理由となる地域の魅力を作っている

伝統祭礼は**貴重な交流の機会**

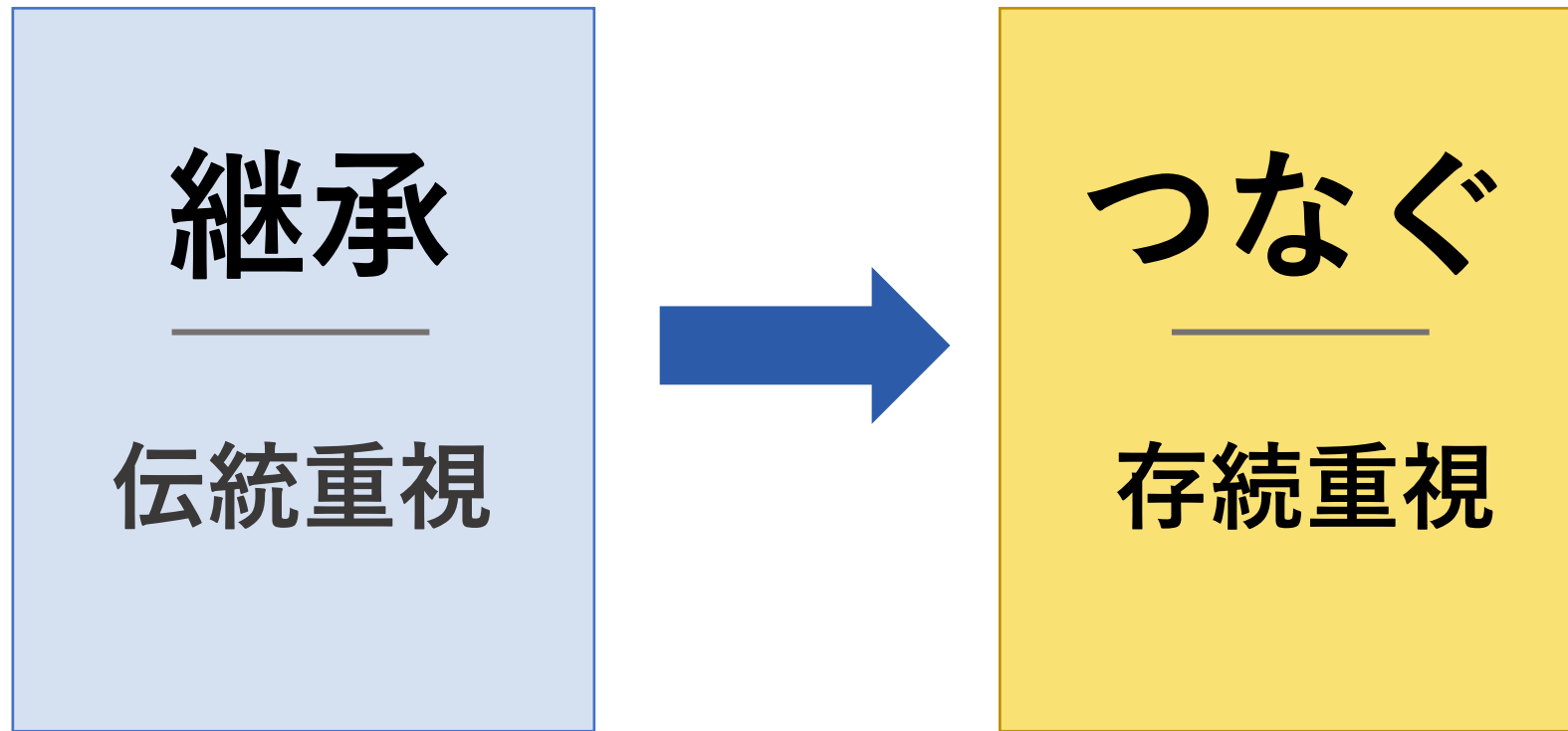
➡ 多くの人が集まり地域が活発に



伝統祭礼の運営変更があったから

伝統祭礼の存続が移住定住を促進させる理由②

柔軟な対応



伝統祭礼の存続が移住定住を促進させる理由②

伝統祭礼の運営変更がもたらすもの

1

参加者層の拡大

2

新規参加者層の受け

3

受け入れの雰囲気醸成

4

交流の活発化

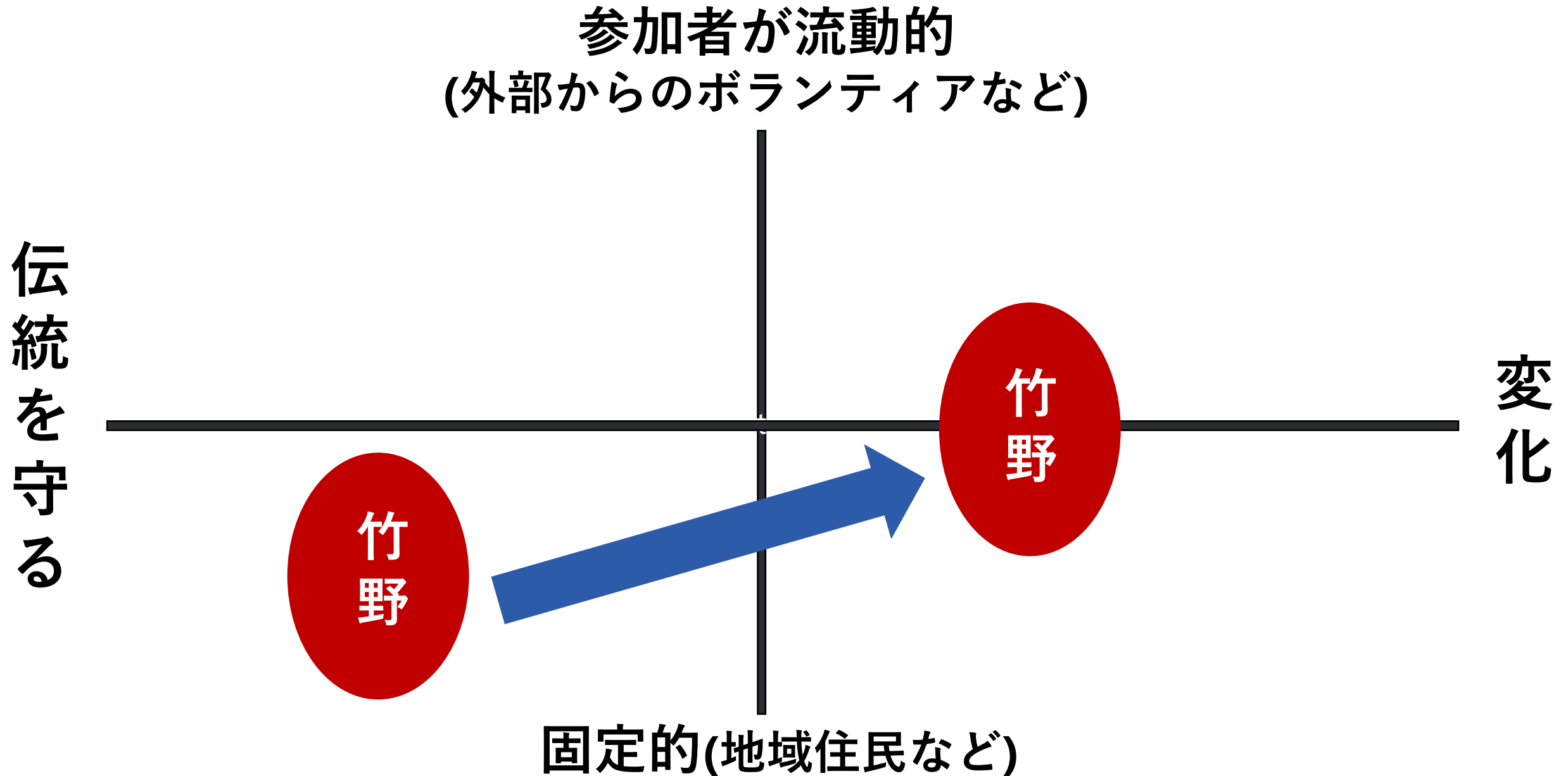
伝統の柔軟な変容は
移住定住を促進させる

06

政策提言



竹野の成功要因



伝統祭礼の存続の役割

提言先

各地域の保存委員会

提言内容

外部の人が参加しやすい環境の整備

1

必要に応じて祭りを「つなぐ」スタイルへと変更すること

2

移住希望者への交通手段の提供や地域の人との橋渡しの役割を担うこと

外部からでも参加しやすい環境を整備



移住定住の後押しとなる仕組みを
確立させる



ご清聴ありがとうございました！

参考文献

(1) 総務省. (2025/03/23) 「「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策 事例集」. (参照日:2025/10/20) https://www.soumu.go.jp/main_content/000742996.pdf

(2) LINEヤフー(2025/1/21)(参照日2025/12/08)

9年で668社の神社が減少 危機の「祭り」に女性や地域外の人たちの参加、マッチングサービスも #絶滅危惧文化 | サストモ - 知る、つながる、はじまる。

(3) 内閣府地方創生推進事務局.(2025/07/01). 「令和6 年度 関係人口創出・拡大のための対流促進事業（中間支援組織の提案型モデル事業）」.(参照日:2025/10/20)

https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r606_ehimesaijo.pdf

(4) 森島明日香.金度源.大窪健之. (2023). 「祭りの行程への参加と地域愛着・世代間交流との関係性 - 岐阜県飛騨市古川町の古川祭を対象として - 」.(参照日:2025/10/20)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/58/3/58_632/pdf/-char/jy

画像

曳山巡行 | 曳山保存委員会